

令和元年度 文京区立礪川小学校 授業改善推進プラン

＜ 4 年 ＞

教科	現状分析	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果は、全体的に区の平均と重なる。読む力に関しては、区平均を下回る。目的に応じて中心となる語や文をとらえて文章を読むことに課題がある ・漢字の書き取りテストや作文では、漢字などを書く力に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述を基に根拠となる文章にサイドラインを引くなどして、目的に応じて内容の中心や要点をとらえることができるようにする ・漢字の書き取りでは、指書き、空書き、送り仮名の音読などの反復学習を行い、文章を書く際に活用できるように指導することで習熟させる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査では、区の平均点同様にでき、学習内容の定着が見られる。 ・社会的事象に対する関心はあるが、グラフや、写真などの資料からの読み取る力や学習したことと関連付けて考える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な資料から、現状やその事象に関わる背景を読み取らせていくことを繰り返すことで、社会的な見方や考え方を身に付けさせる。 ・学習したことと、日常生活を関連付けて考えさせることにより、知識を生活に結び付けて生かせるようにしていく。 ・新学習指導要領実施に向けて、都道府県名は、国語の漢字指導と関連させて覚えることで習熟させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果では、ほぼ区平均である。領域別に詳細に分析すると「数量関係」は区平均よりも上回っている。「数学的な考え方」はわずかながら下回り、課題が見られる。 ・東京ベーシックドリル診断シートの結果では、正答率は概ね良好な結果であった。その中で、データを集計して棒グラフに表す問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、表現力を高めるために、考え方を生かして解決の見通しを説明させたり、ペアや小集団での対話活動を取り入れたりする。 ・グラフの学習では、落ちや重なりがないようにデータから表に集計する活動等を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査では、区の平均点同様にでき、学習内容の定着が見られる。 ・理解はしているが、知識と実験観察したことを関連付けて考察する力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活経験や知識を基に「予想」し、「実験」で確かめて、その結果を既習事項や経験と「比較して考察」させるという問題解決的な学習の流れを身に付けさせていく。グループでの対話を取り入れて、多面的な見方をしながら考察できるようにしていく。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室でのきまりを守って、落ち着いて学習に取り組んでいる児童が多い。 ・リコーダーの学習に積極的に取り組み、音色や曲想に気を付けて演奏しようとしている児童の姿が見られる一方、運指に少々苦勞している児童もいる。 ・積極的に鑑賞に取り組み、曲想の変化に耳を傾けて、音楽を楽しんで聴こうとする様子が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽室での学習のきまりを確認しながら、児童がしっかりと学習ができるよう、授業を進めていく。 ・リコーダー等を個別に指導する時間を設けて、力を伸ばしていく。 ・響きのある歌声にあこがれを持っているので、無理のない範囲で発声や発音に注意しながら、自分の歌声に自信をもたせていく。二部合唱に組み込み、合わせる楽しさを経験できるようにしていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組んでいる。また、新しい用具や材料には積極的ににかかわり、手や体全体を十分に働かせようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前半は造形遊びや、グループでの活動を多く取り入れ、自然に相互鑑賞ができるようにし、いろいろな表し方や良さ、面白さが感じ取れるようにする。また、試しながら表したり、次第に表したいことが明確になるような題材を多く取り入れたりすることで、発想を自由に広げていけるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動への意欲があり、基本的な技能を身に付けている。 ・器械運動の領域では、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を確認しながら、個人差に対応できるようにする。運動によって、課題別での取り組みや、ペアやグループで教え合って互いに高め合う活動を取り入れていく。 ・課題意識をもたせ、スモールステップの場の工夫などをして取り組ませたり、学習カードを活用したりすることで達成感を得ながら取り組めるようにする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・一時間ごとの課題に対して素直に考え、対話や発表の際も自分の考えを伝えることができている。学んだ価値に関して、今までの自分を振り返ったり、これからの生活に結び付けて考えたりするなど、多面的多角的に考えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して、今までの自分を振り返りながら意見を形成し、他者と対話することによって考えを深めていけるように指導していく。学習を通し、これからどのようにしていくかという実践意欲につなげられるように、振り返りを行わせる。また様々な意見を教師が取り上げ、より課題に関して多面的多角的に考えられるように指導する。

総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「いのちを守る」での取り組みは、子供たちの防災意識を高める取り組みとして効果的だった。事前学習や防災宿泊体験での活動を通して、自分の課題に向き合うことができた。調べる時間の確保が難しく、様々な資料から必要な情報を選択し、表現することに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる時間をしっかりと確保し、自分の課題に合った資料を選定できるようにする。 ・Powerpoint を活用してプレゼンテーションを作成させ、選択した資料を効果的に活用してグループで発表する機会を設定する。また、学習したことをこれからの自分の生活に結び付けて生かせるように指導していく。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTの指示を聞きながら、理解しようという気持ちはあるが、英語の指示だけでは活動が難しい。 ・コミュニケーションを取り合う活動や映像から会話の大まかな意味合いを聞き取ることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の理解を促すため、様子によって日本語での指示を補助的に入れる。活動の中ではできるだけ英語でやりとりができるように支援する。 ・反復練習の段階で、しっかり声を出すことでフレーズに慣れ親しませ、自信をもたせる。単語を変えたりしながら、自分のこととしてコミュニケーションがとれるように指導していく。